

子供にどんなメッセージが伝わっているのか

名著「7つの習慣」の著者であるコヴィー博士

コヴィー博士の息子の一人が、学校にうまく適応できず、成績もかなり落ち込んでしまいました。

その息子は、人と接することにおいても未熟で、また、スポーツも苦手な子どもでした。

コヴィー博士は、何とか息子を助けたいと、必死になりました。

息子が前向きになるように「頑張るんだ！絶対にできる！」と励まし、息子が少しでもうまくできた時には、彼が自信をもてるように「いいぞ、その調子だ！」と励ました。

他人が笑おうものなら、「からかうんじゃない。息子は頑張っているんだから。」と怒りました。

コヴィー博士は、息子を支え、サポートしようと努力しました。

しかし、息子は完全に自信を失ったままでした。

コヴィー博士の努力は、まったく報われませんでした。

そして、コヴィー博士は、あることに気づいたのです。

「息子に対する、自分の見方に問題があるのではないか？」と。

コヴィー博士は、自分が心の奥底で、「息子は基本的に劣っている。あるいは、何かが足りない。」という意識で、息子を見ていたことに気づきました。

「自分が助けてやらないと、息子は自立できない」という見方で、息子を見ていたのです。

「だから、自分の努力が報われなかったのだ。」と気づきました。

表面的な行動や言葉をどう変えてみても、息子に実際に伝わっていたメッセージは、

「おまえにはできない。だから、おまえを守る必要がある。」というものだったのです。

そこで、まず「息子に対する見方」を変える必要があると気づいたコヴィー博士は、息子の独自性と可能性を信じるよう決意し、彼の邪魔をしないようにしました。

親として、息子を信頼し、尊びました。

こうして、息子に対する見方を変えた結果、息子には次のような無言のメッセージが伝わりました。

「おまえを守る必要はない。おまえは、十分にやっていける。」

その結果、息子は自信に満ち始め、勉強においても、友人関係においても、スポーツにおいても、目を見張るほどの成長を見せたのです。

何年か経って、彼はスポーツでは州のベストプレイヤーに選ばれ、学校ではクラス委員に選出されたのです。

（以上、「7つの習慣」 キングベア出版 より抜粋して要約）

これも、「息子に対する見方」が、実際に彼の成長に大きな影響を与えていた例です。